

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人 瑞穂会		
事業所名	グループホーム かみさの家 ユニット「ぼかぼか」		
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町大官43番地		
自己評価作成日	平成27年 9月20日	評価結果市町村受理日	平成28年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の野菜や花を栽培し、交流のある保育園児を招待して、利用者様と一緒に収穫を楽しめるようにしています。又、散歩や外気浴など、利用者の方が気兼ねなく室外へ行けるよう開放的な環境の維持に努めています。基本理念を忘れず、個々の生活スタイルやペースを尊重し、個々に合った支援が出来るよう努めています。運営推進会議や家族会を通して、より良いホーム作りのための意見やアドバイスを頂ける場を設けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&igvsvocd=2372101390-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑が広がる静かな環境の中、広い敷地内に事業所と特別養護老人ホームが併設されている。近くには石工団地や幹線道路沿いに連なる飲食店がある。大屋根で落ち着いた雰囲気のある日本家屋がL字型に建てられている。広い庭には畑や季節を感じる数々の果樹や花が植えられている。一面には東屋があり、四季の草花を見に近所の人々が散歩に訪れたり、入居者が園芸や収穫を楽しむ場所となっている。「ゆくりと・楽しく・普通の生活を」の理念に沿って、施設長、管理者、職員が一体となり、日々のケアに繋げている。開所から12年、地域との交流を深め地域の行事や祭りに参加したり、施設の祭りの手伝いを地域の方にして頂き、地域の方と一緒に楽しみ地域に馴染んだ催しとなっている。また、災害時連絡網の一端を担って頂くなど、地域と防災の連携を深めている。職員の制服は定めず、入居者と家族同様に接し、会話と笑い声の絶えない雰囲気を作っている。入居者は、天井が高く柔らかい日差しが注ぐ落ち着いた居間で編み物をしたりお喋りを楽しんだり、ソファや椅子で寛いだりして思い思いの時間を過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	平成27年 10月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の際に理念の読み上げと意図を確認し、職員間の理解を図るようにしている。又、継続して今年度の職員個々の目標を掲げ、意識の向上を図っている。	「ゆっくりと 楽しく 普通の生活を」を基本に、6項目の理念を掲げ、会議などで確認をしている。職員個々の目標を事務室の見やすい場所に掲示し、職員間の理解を図り、意識向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な利用者主体の買い物による社会資源の活用と共に、地域の催し物や清掃活動への参加を積極的に行っている。	町内会の「ふれあいサロン」や地域の石祭り、地藏祭りなどに出かけ、長年続いている繋がりを大切にしている。法人が主催する夏祭りでは、大勢の地域の方が屋台を手伝ったり、盆踊りを一緒に楽しんだりして地域の一員として交流を深めている。保育園児との触れ合いや散歩を通して地域との交流に心がけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター主催の勉強会にて、認知症の方に関する勉強会に参加し、基本的な知識や施設内で実践されている支援方法などを提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状での課題や様々な立場の経験から、違った角度からのアドバイスを頂けている。今年度は防災について年間を通して地域との協力体制について検討する事とし、実際に防災訓練にも参加頂き改善点の洗い出しを行っている。	家族や町内会総代、学区の児童・福祉委員会の委員長、老人クラブ長など各方面の参加を得て、2か月に1回開催されている。いろいろな視点から意見が出され、運営に反映させている。今年度は防災を重点に改善計画をつくり、意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な介護相談員の方の訪問時には口頭及び書面にて情報交換をおこなっている。又運営推進会議にも参加頂き、意見や案を提供して頂けている。	介護相談員の来所時や運営推進会議の折に市職員と情報交換を行っている。更新手続きの折に、行政担当者に施設状況の報告をしたり、指導や助言を得たりして協力関係を深めるようにしている。また、市主催の研修会などに参加をする機会もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を設け職員の意識や支援方法を確認することで、不適切ケアを行わない事への共通理解に心掛けている。身体拘束は行わないケアの方針は継続されている。	拘束委員会を設置し、年2回の内部研修を実施している。研修内容は委員が日々のケアの中から立案し、ユニット間で職員の相互に理解を深め、束縛感のない環境やケアに努めている。独りでの外出を希望する入居者には、見守りながら支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアを未然に防げるように利用者支援に対し、職員が負担やストレスを溜め込まないよう個々のケースに合わせて会議やカンファレンスの場で意見を出し合い、より良い支援方法を検討する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用している方も見える為、会議の場を通して学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	項目に関し、一つ一つ確認しながら説明し納得していただいた上で、署名・捺印を頂いている。改定等の際は家族会にて説明、検討、了解を得て同意書に署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時の面会時や、家族会にて課題や要望などの意見を頂く機会を設けてる。運営推進会議にも家族会として順番に参加頂き、家族の想いや考えを確認できるようにしている。	入居者からは、日常のケアの中で意見や要望をくみ取り、管理日誌に記入している。家族からは、面会時や行事、カンファレンスの折に意見や要望を聞いたり、家族会や運営推進会議などでも確認をしている。意見、要望は毎月の職員会議やユニット会議で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は職員個々に面談をする時間を設定し意見や思いをヒヤリングし、会議の場を活用し職員間でも話し合う機会を設けている。	管理者は日常の業務中で、職員の意見や提案について一緒に考える方針の基に、積極的に話し合っている。施設長も定期面談や必要に応じてヒヤリングをし、会議の場で話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就労環境や業務内容に関する意見や考えの抽出、資格取得に対する支援や情報提供を行っている。年1回5連休のリフレッシュ休暇取得を継続実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を中心にスキルアップに努めている。又外部研修の情報を提供し、参加希望者や研修内容に応じて適任職員に参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会やブロック会議に参加し、情報交換や勉強会を通して参考意見を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設側からの質問や聴き取りにならない様に心掛け、御本人やご家族の想いや意見を確認できるように対応している。又、入所前にはまず通所や訪問をして頂くことで、不安の軽減と環境設定に向けた状況確認が出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接時に必ず家族の想いや要望を確認し介護計画書に反映する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、御家族の意見や要望を把握した上で、優先的な必要とされる支援内容を介護計画書に反映させるようにしている。併設施設との連携も必要に応じて実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に出来る事を把握することで、家事や畑作業趣味趣向活動など利用者と共に一緒に行い、ここが主体となって行えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気兼ねなく面会や外出して頂けるよう投げかけている。又近況を担当職員より毎月写真付きの手紙にして郵送し生活の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や地域の集まりなど知り合いが集まる場への参加を支援している。又、知人から利用者あてに送られてきた絵葉書を居室に飾り、知人を思い返せるよう話題に繋げている。	知人との面会の機会を大切にしたり、地域の「ふれあいサロン」に参加して、知り合いと会える機会を大切にしている。喫茶店や外食などに出かけ馴染みの場所になるよう支援している。書道や華道クラブで趣味を楽しんだり、編み物やピアノなどの特技を活かし活力や生きがいに繋がるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で過ごせるようソファの複数設置や食事の際の席などは気の合う方どうしで過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から相談があった際には助言をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、言葉や表情、態度や行動等さまざまな事から思いを感じ取るように努めている。	日常の関わりや会話、表情、ケアの中から把握するように努めている。希望、意向は申し送りや管理日誌に記録して職員で共有し、カンファレンスやケアプランに反映している。独り散歩や花壇の手入れなどの要望は、安全が確保できる範囲で工夫をしながら、思いに応えられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所サマリーやご本人、御家族より情報を集めつつ、日々の生活の中から垣間見える事が多々ある為、把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課や家事・軽作業等から有する能力がわかり、継続することで変化が見えてくる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には面会時等に報告・相談を行い、内容を介護記録や申し送りを通して職員全員で共有して話し合っている。	カンファレンスには家族が参加し、意向を確認している。状態や日常の課題などの変化に応じて計画の見直しをし、職員全員で共有している。介護計画は3か月ごとに全員で見直しをし、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各担当職員がケアプランに沿った気付きや反省、変化を毎月記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の暮らしの中での生活リハビリや、季節感が感じられる行事や外出を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の公民館での行事や、地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続で、ご家族と受診されている。	かかりつけ医を希望する入居者は、家族の協力を得て受診している。内科、歯科は協力医療機関で2～3か月に1回受診している。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては看護記録に記載し、職員間で共有し、適切なケアが受けられるようにしている。	定期的なバイタルチェックや協力医との関係を綿密にし、より適切な医療体制を整えて行くための看護体制を整えて行くことを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常の相談・指導をもらっている。ケース記録により職員が情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応はご家族と職員で行い、入院までの経緯、日常の様子等の情報を医療機関へ提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意見や要望に沿って、可能な限りの対応を行っている。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に同意書を取り交わし方針を確認している。看取りができる体制を整え、職員研修も行っている。法人内で特養や短期入所施設があり、医療機関と連携し、本人、家族の希望に沿うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急、緊急時マニュアルを作成し、職員の周知を徹底するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1回/月の避難誘導訓練を実施している。今年度は9月末に運営推進会議員・家族会・地域住民の方と一緒に通報～応援要請～避難誘導訓練を実施する。	月1回訓練を実施し、全職員が通報・避難誘導訓練を経験している。入居者も避難時の行動が身につくようになった。災害発生時に消防署と同時に町内会総代へ一報が届くシステムになっている。地域住民と共に訓練を行い、地域との協力体制が深まっている。水害訓練を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に他者の前で、間違った言動等を否定したり、プライドを傷つけないよう、慎重な声掛けを心掛けている。	職員の都合に合わせず、個性を大切に、自尊心を傷つけず出来る事ややっていける様に、プライバシーや立場を尊重したケアに心がけ、よりよく過ごせるように配慮している。日々のケアの中で、気付いた時に職員相互で注意し合うことができるようになった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	お願いをする時は、必ず尋ね利用者が主になるように、又、自分の思いや希望が自己決定できるように声掛けの方法を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	縫い物、編み物、塗り絵等で利用者個々が得意とすることを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選服することで、ご本人の好みの洋服を着て過ごすように努めている。月に1回、美容奉仕を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望に沿いメニューを決め、食材の下ごしらえや盛り付け、食後の後片付けを手伝って頂いている。	入居者の希望を聞いて献立を立てたり、敷地内の畑で採れた野菜を食材にしている。職員と一緒に食事作りをしたり、配膳や後片付けを手伝っている。職員は入居者といっしょに食事をしながら、会話や音楽を楽しんでいる。誕生日会特別メニューや季節ごとに外食なども実施し、食べる楽しみが持てるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を毎回チェックしている。好みに合わせ個別にメニューを変更したり、水分量確保の為に色々な飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前の歯磨きへの声掛け、必要者には介入を行い、個々に応じたケアをし、必要物品を揃えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の把握をし、見守り・誘導を行う。失敗した際は、対人関係を考慮し周りに気付かれないように心掛けて対応している。	24時間シートで排泄状況を把握し、見守り、誘導の目安としている。リハビリパンツは使わない方針でトイレで排泄できるよう支援している。静かな対応を心掛け、何気ないケアの中で安心して済ませるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水溶性、不溶性食物繊維をメニューに入れ込むことや、体操時の腹部マッサージをすることで腸活が行えるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後より体調をみながら、1番風呂や時間指定などの希望に沿った入浴を実施している。対応が行えない場合は、ご本人と話し合い納得して頂けるようにしている。	2日に1回、午後入浴をしているが、希望があれば毎日でも、夕食後でも対応している。入浴を拒む方には気分転換を図り、気持ちよく入浴できるような支援をしている。しょうぶ湯やゆず湯など季節を感じさせる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態、状況に合わせて休息している。ゆっくりと休めるように居室温度や明るさ等を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が薬ケースに入っており、服薬による体調変化は医師や看護師にすぐに伝えるようにしている。内服薬変更時は申し送りにて、職員全員に伝わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の体調や気分を見定め、調理や洗濯物の仕分けなど、日常の手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春と秋は周辺の散歩を行い、公民館など町内の行事に出掛けている。季節ごとの行事はご家族の協力が得られており参加がある。	施設周辺の散歩が日課になっている。広い敷地内には四季折々の花や果樹が植えられ手入れをしたり、眺めたりしている。苗を植えたり、収穫をしたり、ティータイムやバーベキューなどをして屋外で過ごしている。家族の協力も得て季節を感じる花見に出かけている。今年は入居者全員で海辺の旅館での一泊旅行を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で支払いが出来る方には小口を渡して、自己にて支払いをして頂く。上手くお金を取り出せない方は、職員が金額を用意して、ご本人がお店の方に手渡しできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えや状態によって、ご家族と相談して電話対応をお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節に合ったちぎり絵や折紙など、みなさんで作成した物や着物を飾っている。	天井が高く柔らかな日差しが注ぐ居間の一面に畳の間があり、フロアにはソファが置かれている。入居者の作った着物やちぎり絵、習字などの作品が広いフロアにほどよく飾られ、落ち着いた雰囲気を出している。部屋の近くに縁台を置き、腰掛けて一休みができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は気の合った者同士になるよう、要望に応じて座れるようにしている。フロア内各所にソファを設置して、好きな所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や日用品、寝具などを持参して頂き、暮らしやすいようにご本人、ご家族と相談して居室内の環境設定を行っている。	入居者は使い慣れた家具や日用品を持ち込み、好みに合わせて配置をしたり、写真や自作の作品を飾るなどして、居心地よい環境にしている。和室3室と洋室6室あり、入居者の希望で交代したりし、居室への配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、車椅子や歩行器使用がスムーズに行えるようになっている。畳の部屋には段差がある為、必要に応じスロープを設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人 瑞穂会		
事業所名	グループホーム かみさの家 ユニット「萌」		
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町大官43番地		
自己評価作成日	平成27年 9月18日	評価結果市町村受理日	平成28年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2372101390-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成27年 10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々が慌てることなく「ゆっくりと 楽しく 普通の生活を」送ることが出来るよう、一つ一つ自分で出来る事や他者を交えて協力し合いながら行う事の達成感を感じて頂いています。職員・御家族・地域の方々とも馴染みの関係を構築し、居心地の良い環境作りを努めています。対ユニットの協力のもと花壇や畑の四季を感じたり近隣の保育園児との収穫を行うことで外部との交流を持ったり、行事に準えユニット全体で御家族と一緒にぶどう狩りに出かけることが出来ました。今年はユニット毎に利用者全員参加の泊旅行を予定しています。運営推進委員会の実施にて当施設との防災の協力を得、毎年地域の方を含めた防災訓練を実施することが出来ている。また、実際に当施設内・外を見学して頂き、防災経路の確認やリスク箇所を挙げて頂き、利用者や職員の状況を踏まえ改善につなげる検討をすることが出来ました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑が広がる静かな環境の中、広い敷地内に事業所と特別養護老人ホームが併設されている。近くには石工団地や幹線道路沿いに連なる飲食店がある。大屋根で落ち着いた雰囲気のある日本家屋がL字型に建てられている。広い庭には畑や季節を感じる数々の果樹や花が植えられている。一面には東屋があり、四季の草花を見に近所の人々が散歩に訪れたり、入居者が園芸や収穫を楽しむ場所となっている。「ゆっくりと 楽しく 普通の生活を」の理念に沿って、施設長、管理者、職員が一体となり、日々のケアに繋げている。開所から12年、地域との交流を深め地域の行事や祭りに参加したり、施設の祭りの手伝いを地域の方にして頂き、地域の方と一緒に楽しみ地域に馴染んだ感じとなっている。また、災害時連絡網の一端を担って頂くなど、地域と防災の連携を深めている。職員の制服は定めず、入居者と家族同様に接し、会話と笑い声の絶えない雰囲気を作っている。入居者は、天井が高く柔らかい日差しが注ぐ落ち着いた居間で編み物をしたりお喋りを楽しんだり、ソファや椅子で寛いだりして思い思いの時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の際に理念の読み上げと意図を確認し、職員間の理解を図るようにしている。又、継続して今年度の職員個々の目標を掲げ、意識の向上を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な利用者主体の買い物による社会資源の活用と共に、地域の催し物や清掃活動への参加を積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター主催の勉強会にて、認知症の方に関する勉強会に参加し、基本的な知識や施設内で実践されている支援方法などを提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状での課題や様々な立場の経験から、違った角度からのアドバイスを頂けている。今年度は防災について年間を通して地域との協力体制について検討する事とし、実際に防災訓練にも参加頂き改善点の洗い出しを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な介護相談員の方の訪問時には口頭及び書面にて情報交換をおこなっている。又運営推進会議にも参加頂き、意見や案を提供して頂けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を設け職員の意識や支援方法を確認することで、不適切ケアを行わない事への共通理解に心掛けている。身体拘束は行わないケアの方針は継続されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアを未然に防げるように利用者支援に対し、職員が負担やストレスを溜め込まないよう個々のケースに合わせて会議やカンファレンスの場で意見を出し合い、より良い支援方法を検討する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用している方も見える為、会議の場を通して学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	項目に関し、一つ一つ確認しながら説明し納得していただいた上で、署名・捺印を頂いている。改定等の際は家族会にて説明、検討、了解を得て同意書に署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時の面会時や、家族会にて課題や要望などの意見を頂く機会を設けてる。運営推進会議にも家族会として順番に参加頂き、家族の想いや考えを確認できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は職員個々に面談をする時間を設定し意見や思いをヒヤリングし、会議の場を活用し職員間でも話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就労環境や業務内容に関する意見や考えの抽出、資格取得に対する支援や情報提供を行っている。年1回5連休のリフレッシュ休暇取得を継続実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を中心にスキルアップに努めている。又外部研修の情報を提供し、参加希望者や研修内容に応じて適任職員に参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会やブロック会議に参加し、情報交換や勉強会を通して参考意見を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設側からの質問や聴き取りにならない様に心掛け、御本人やご家族の想いや意見を確認できるように対応している。又、入所前にはまず通所や訪問をして頂くことで、不安の軽減と環境設定に向けた状況確認が出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接時に必ず家族の想いや要望を確認し介護計画書に反映する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、御家族の意見や要望を把握した上で、優先的な必要とされる支援内容を介護計画書に反映させるようにしている。併設施設との連携も必要に応じて実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に出来る事を把握することで、家事や畑作業趣味趣向活動など利用者と共に一緒に行い、ここが主体となって行えるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気兼ねなく面会や外出して頂けるよう投げかけている。又近況を担当職員より毎月写真付きの手紙にして郵送し生活の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や地域の集まりなど知り合いが集まる場への参加を支援している。又、知人から利用者あてに送られてきた絵葉書を居室に飾り、知人を思い返せるよう話題に繋げている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で過ごせるようソファの複数設置や食事の際の席などは気の合う方どうしで過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から相談があった際には助言をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の思いを汲み取れるよう努めている。定期的カンファレンスやアセスメントを行い希望に沿った生活を送れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの慣れ親しんだ物や暮らしを把握し本人の希望に沿った生活に繋げていけるよう努めている。レクリエーション参加によってその人の特技を知ること出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしやアセスメント・ケアプランの更新、申し送りによって利用者の変化を知り、職員間で共有することができる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的評価を実施。本人や家族の意向も踏まえてカンファレンスを行い、現状に即したケアを行えるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、本人の言葉や表情、見聞きしたそのままを記録に記載している。支援者側の言動も記載することで、よりよくケアすることが出来るよう見直す事が出来る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリを活用している。また、ホームでの生活に困難な様子が見られる際は、包括との連携を取り、特養への意向等相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への買い物や町内の行事に参加している。運営推進会議にて地域との関係づくり、地域合同防災訓練を実施されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力内科医にて健診・定期受診・予防接種等受けている。また、歯科も定期的に受け看護師同行している。家族の同行、または連絡報告にて医師からの説明アドバイスを受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、または必要時、情報共有し緊急時には速やかに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供している。また、本人の混乱の無い範囲で面会している。退院に向け情報提供し退院後の生活支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との関わりの中で今後起こり得る状態変化等について説明、家族より同署を頂いている。ホームでの生活に困難を来す際、併設の特養と連携し支援の場を移行している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて高齢者(認知症)に多い症例を元に勉強し備えてる。引き続き実施計画をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1回/月の避難誘導訓練を実施している。今年度は9月末に運営推進会議員・家族会・地域住民の方と一緒に通報～応援要請～避難誘導訓練を実施する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々のプライバシーに配慮している。他者からの指摘で、中傷されないように必要に応じ、職員が介入している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の意思表示にて思いを尊重し、出来ない方からは表情や行動から思いを汲み取れるよう努め意にそぐわないものとならないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々のペースに合わせ共有できる場所、一人でゆったりと過ごされるところと、本人にとって負担のないように環境を設定している。また、その日の体調や気分留意し活動と休息のバランスを図るようにして。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、選服は自身または一緒に行き毎朝ホットタオルにて洗顔されている。美容奉仕にて散髪・毛染め行われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節や行事などの話題を取り入れメニューを取り入れている。出来る方には調理や盛り付けをしてもらい各自出来る事で食事の一連に参加して頂き食べる楽しみを持って頂く。また、咀嚼状態に合わせてカットすることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼状態や毎月の体重変動に合わせて、調理や方法・配膳量に配慮している。慣れ親しんだ食器を使用することで食思にもつなげている。食事量の少ない方には栄養補助食品などを取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや定期受診にて衛生的に過ごせている。また食前の口腔体操実施にて誤嚥性肺炎の予防にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が見られる方は、時間帯に合わせ誘導をしている。また、身体機能に合わせ夜間ポータブルトイレを使用される方も自身にて行えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や乳製品、ティータイム時の飲み物にオリゴ糖を使用するなど、整腸作用につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望時、又は2日に1回は入浴できる様にしている。必要に応じて、踏み台や自助具を使用し安全に入浴が行えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思や体調を考慮し、活動と休息のバランスを取り夜間の安眠へつなげている。夜間の睡眠状態をみながら、日中の活動等調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースや日々の個人の介護記録と一緒に処方箋を綴じてある。服薬による体調変化は医師や看護師にすぐに伝えられている。また、内服薬変更時は職員全員に申し送りされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や軽作業を中心に個々で役割を持たれたり、気の合う(話の合う)方同士でソファやテーブル席でお茶を飲まれくつろがれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・散歩を行われている。全体での旅行や誕生日での外出、または家族とのドライブにて出かけることが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理をしているが、事故にて管理できる方は可能な範囲で所持してもらっている。(家族の了承得ている)買い物先では、金銭の認識が薄い方とも一緒に支払いを行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	曜日指定のある方は希望があればその指定内にて入電しお話しが出来る。月に一度、写真を貼付したお手紙にて近況を報告し家族との関係づくりに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かるよう、ユニット内の飾りを利用者と共に制作する。花壇や花畑に季節の花を植えフロアや居室から指揮を感じられる様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で組み合わせをし、共有スペースで過ごされている。また、一人や数人で過ごせるような空間もつくり、落ち着いて過ごせるよう環境設定をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や思い出の品を置き本人の安心できる空間を作っている。身体状況に応じ動線の確保をする為、本人と室内配置の変更をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内やトイレ場所が分かるよう案内表示や縁側に出る為、段差や手すりの設置等安全に生活できるように環境作りに努めている。		